
リリカルなのは 次元を渡る被魔師

鞘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのは 次元を渡る被魔師

【Nコード】

N0693Z

【作者名】

鞘

【あらすじ】

悪魔を倒すためにいろいろな世界を飛び回るが、次の世界は魔法の世界だった！不定期更新です

プロローグ

「これで…最後だ！」

紅蓮に燃え盛るような炎を纏いながら青年は赤い炎を纏わせた剣を怪物に振り下ろす

「ぐぎやああああああ！！」

そして切り裂かれた怪物は切断面から赤い炎を出しながら燃えて、そして霧散して消えた

青年は剣を鞘に収めると、その場に座る

「これでここらへんにはもう悪魔は出ないんじゃないかな？」

「はい。周辺に悪魔の反応はありません」

青年の問いに右腰に収められている青い剣が光りながら答える
その声は冷静な声だった
すると、先ほど怪物を切った左腰に収められている赤い剣が光り出した

「それにしてもさすがは主！あんな悪魔、主なら造作もなかっただろうな」

女性の声はどこか嬉しそうな声だった
青年は微笑みながら答える

「いや、楓のおかげだよ。俺の力はお前たちの力を上乗せして使っ

「ているんだから」

刀を撫でながら青年は答える

「う、うむ／＼」

（まさかここでマスターのポイントアップを狙うなんて！でも私も負けてはいられません！いずれ私だって…あんなことやこんなことだって…）

と一人だけなんか変な思考に走っている奴がいるがそれは無視
そして青年は木にもたれて座り込む

「少し休もつか…」

「そうですね。今日はもう休まれたほうがいいですね」

「眠って大丈夫じゃよ。わらわたちが外を警戒しておくからの」

「そうか。ありがとうね二人とも」

青年は二本の刀を撫でながら目を瞑る

プロローグ（後書き）

何となく書いてみました

感想などよろこ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0693z/>

リリカルなのは 次元を渡る祓魔師

2011年12月2日18時48分発行